

天塩町地域公共交通活性化協議会

令和4年3月3日設置

天塩町



概要

天塩町は北海道留萌振興局管内の最北部に位置し、宗谷、上川地域を境として、遠別町、幌延町、中川町と隣接する総面積353.56km²のまちで、人口は2,811人（令和4年12月末）、高齢化率は37.0%（令和4年1月1日現在）となっている。

公共交通は、沿岸バス(株)により高速バスが1路線（特急はぼろ号）、地域間幹線系統は1路線（幌延留萌線）及び市町村単独補助路線は2路線（豊富羽幌線、天塩更岸線）が運行しているものの、これらの運行を維持するために年間約2,500万円を要している。

他の輸送サービスは、小中学校と高校通学のスクールバス等、福祉事業として福祉有償運送と医療バス及びハイヤー利用助成事業、その他ライドシェア（ノッテコ：相乗りボランティア輸送）で、この中で高校通学のスクールバスについては年間約3,000万円を負担しており、本町が負担すべき費用の適正化が必要となっている。

このため、町内における公共交通のニーズを把握することにより、天塩町にとって利便性の高い持続可能な公共交通体系の構築を目的に「天塩町地域公共交通計画」を策定する。

○地域公共交通の現況

- ・沿岸バス(株)（特急はぼろ号、幌延留萌線、豊富羽幌線、天塩更岸線）
- ・その他の送迎交通等（福祉有償運送、スクールバス、地域医療バス、ライドシェア（ノッテコ：相乗りボランティア輸送））

○地域公共交通の課題

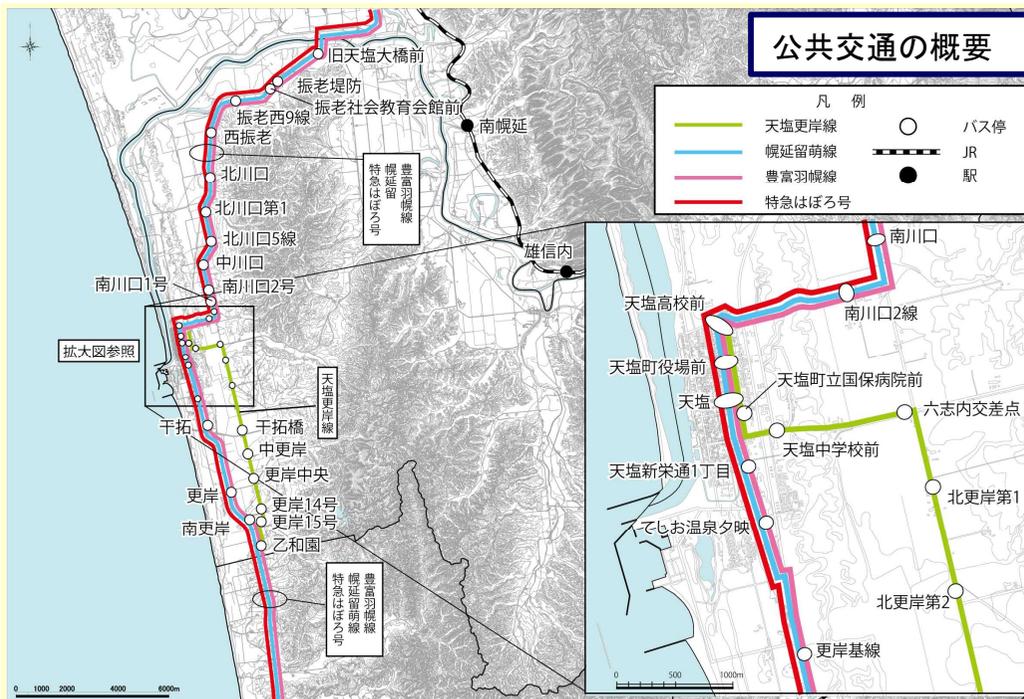
- ・デマンド交通など交通弱者の生活交通に対応した新たな公共交通の確保
- ・高校通学における本町が負担すべき費用の適正化
- ・ノッテコの代替措置を含めた稚内市等への医療（通院）を目的とした輸送・送迎方法の検討
- ・スクールバスの利活用

○調査の主な内容

- ・ニーズ把握調査（R3年度実施）
- ・デマンド交通実証運行調査

○地域公共交通活性化協議会開催状況

年月日	協議会・分科会	主な協議事項
令和4年3月3日	第1回協議会	協議会の設置、ニーズ把握調査の結果の報告
令和4年4月30日	第2回協議会（書面協議）	公共交通の課題についての承認
令和4年8月30日	第3回協議会	デマンド交通短期実証調査実施計画の承認



年月日	協議会・分科会	主な協議事項
令和5年1月20日	第4回協議会（書面協議）	事業評価の承認

天塩町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

1. ニーズ把握調査結果(令和3年度)

(1) 住民アンケート調査

①調査の方法

- ・天塩町にお住まいの全世帯(1,492世帯)を対象に各世帯3名までが回答可能なアンケートを実施した。
- ・郵送による配布・回収により回収数は412件(回収率27.6%、709人が回答(1.72人/世帯))となった。

②調査により明らかになった点など

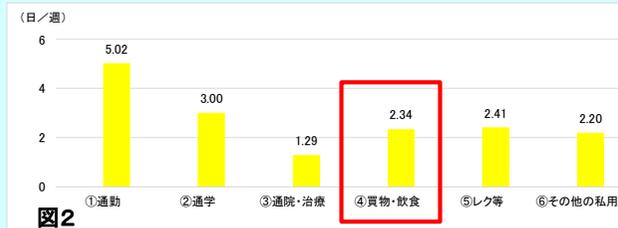
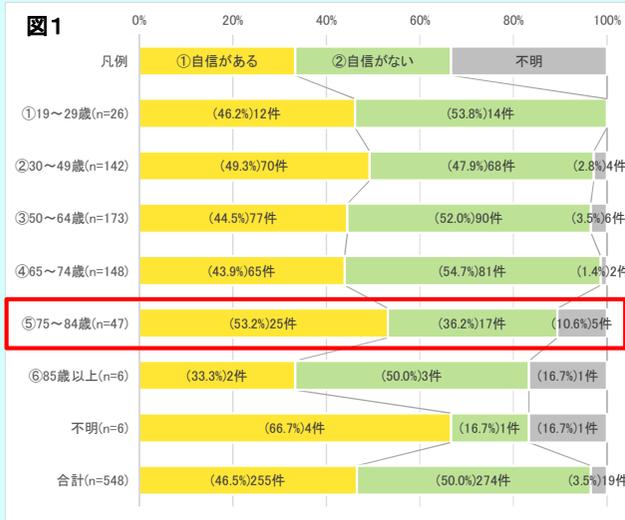
- ・停留所方式よりも高いサービス水準により、生活交通に対応可能な週2日程度の運行と、自宅及び市街地の目的施設(連絡施設)を直接輸送できるデマンド交通について、年長の高齢者の利用ニーズが増加することが明らかとなった。
- ・高齢ドライバーを対象とした運転への過信を抑制するための対策の必要性が明らかとなった。

【事故を回避する自信】: 図1

- ・反射神経など身体的な能力が低下するとされる年長の高齢者(75歳~84歳)の方が「自信あり」としており、運転を過信する危険な状況である。

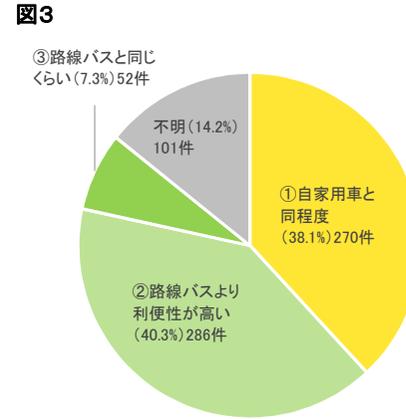
【1週間当たり外出日数(回数)】: 図2

- ・「買物・飲食目的」においては、2.34回/週となっており、買物・通院といった生活交通を確保するためには、週2日程度の外出に対応することが必要である。



【公共交通のサービス水準】: 図3

- ・「自家用車と同じぐらいの利便性」と「バスより利便性が高い」が4割弱。



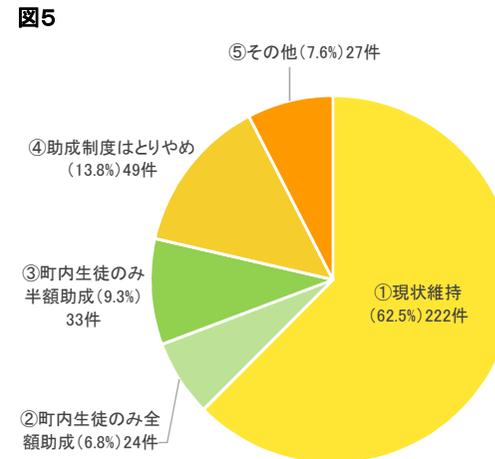
【デマンド交通の利用】: 図4

- ・65歳以上において「利用する」が増加している。



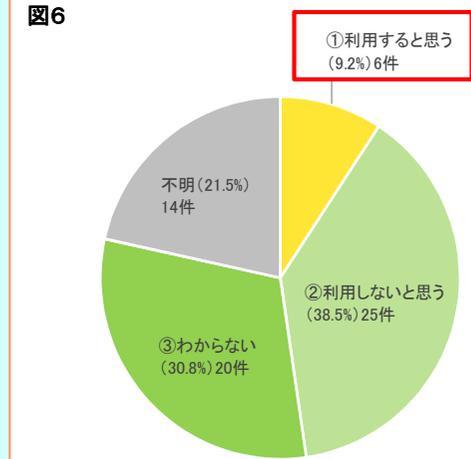
【天塩高校への通学助成】: 図5

- ・「現状維持」が6割強となっている。



【ノッテコ代替交通】: 図6

- ・「利用すると思う」が1割程度となっている。



代替交通: 2,000円/稚内片道

天塩町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

2. デマンド交通実証運行結果(運行期間:11/7~12/30)

①運行概要:図7

- ・地域医療バス利用者をはじめとした全町民の対象とし、デマンド交通が町内公共交通となり得るかを判断するために、約2ヵ月間の短期実証調査を実施した。
- ・雄信内方面、川口・産土方面及び更岸方面において、各2日/週、1日2便(往復各1便)、1乗車当たり大人200円で運行した。

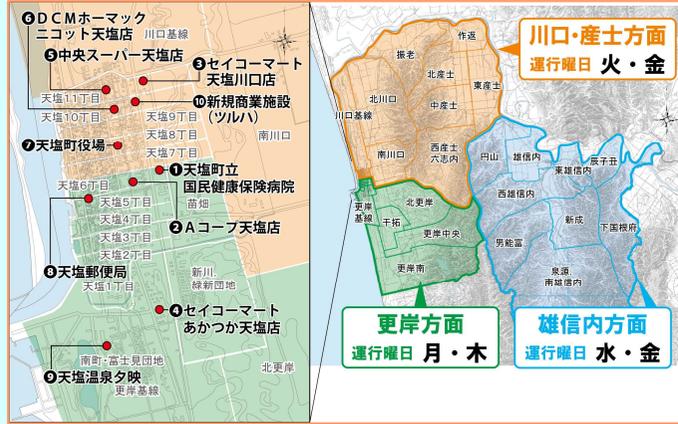


図7 デマンド交通運行区域



乗車の様子



いきいきサロン天塩



デマンド待合(ニコット)

②調査により明らかになった点など

- ・一部の改善を含めデマンド交通を本格運行すべきが85.7%となっているものの、輸送人数は地域医療バスの4割にとどまり、連絡施設として歯科クリニック等の追加、利用が少ない川口・産土方面の統合、行き・帰り時間の中で市街地内を行き来できる交通手段の検討の必要性が明らかとなった。
- ・タクシー事業者が10/25に撤退したため、タクシーによる外出先での移動ができず、デマンド交通を敬遠された方が一定数いるものと推測される。

③輸送結果:図8

- ・利用登録者は78人となった。
- ・輸送人数は、雄信内方面が41.3%にあたる38人、川口・産土方面が7.6%にあたる7人、更岸方面が51.1%にあたる47人の計92人である。
- ・1年間に換算(×6)すると552人/年で、令和2年度の地域医療バス輸送実績1,370人/年の約40%となる。

図8(11月)

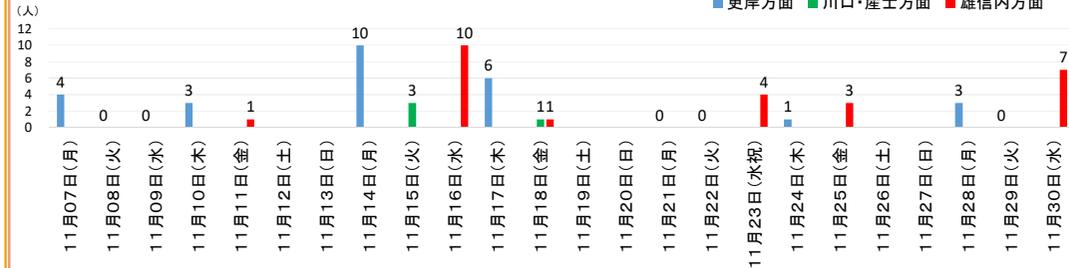
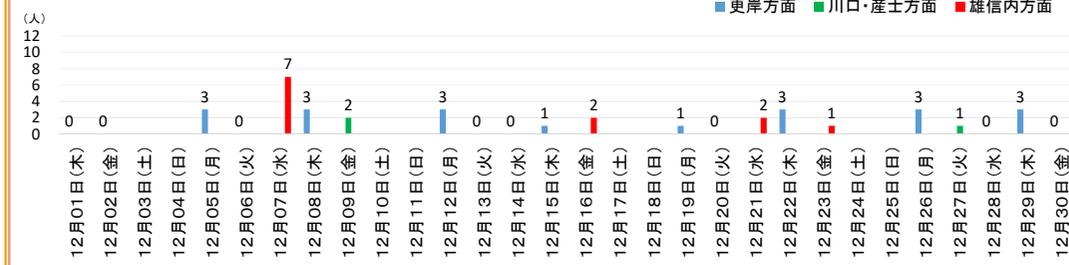


図8(12月)



④利用登録者アンケート調査結果

【調査の方法等】

- ・全利用登録者(68世帯)を対象に郵送により配付し、郵送により回収(28世帯)した。回収率は41%である。

【本格運行の是非】

- ・以下から一部改善を検討しながら本格運行について検討する。
 - ▶現在の料金で本格運行すべきが5割弱: 図9
 - ▶一部改善して本格運行すべきが6割強: 図10

図9

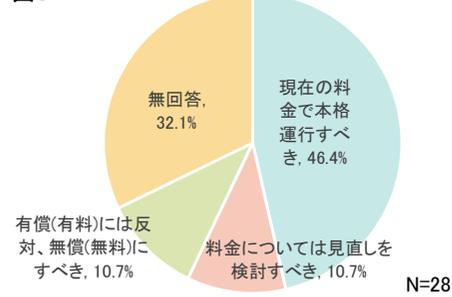
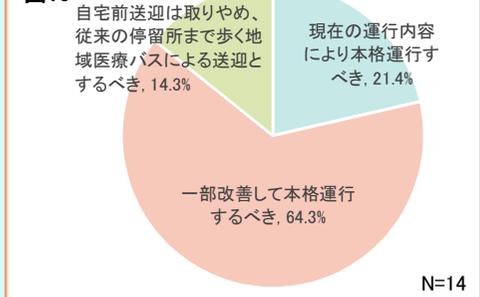


図10



天塩町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

1. 基本理念(案)

『運行の安全確保には費用を要することを発信しながら、利便性の高い持続可能な公共交通体系を構築する』

2. 基本方針(案)

(1) 広域交通・地域間交通の利用促進

【幌延留萌線の確保維持】

- ・留萌市中心部と幌延町を発着地として、天塩町など留萌管内各市町村を連絡
- ・留萌市と幌延町を結ぶ唯一の公共交通手段で、公共施設、病院、高校等の登下校利用など住民にとって欠かすことのできない生活路線であるため、地域間幹線系統補助を活用し、持続可能な移動手段を確保する。

【豊富羽幌線の確保・維持】

- ・羽幌本社ターミナルと豊富町中心部を発着地として、天塩町内など留萌管内各市町村を連絡
- ・羽幌本社ターミナルにて幌延留萌線及び羽幌留萌線に接続
- ・当該路線は市町村単独補助路線であるが、複数の町村を運行し羽幌町にて地域間幹線系統に接続する路線であるため、市町村の意向を踏まえ今後調整する。

【広域連携交通の検討】

- ・マイカー相乗りマッチングサービス（ノッテコ）による相乗り交通事業の代替交通として、遠別町、天塩町、幌延町、豊富町及び中川町の各町内と、稚内市内及び名寄市内の病院との間を運行する3町連携交通を検討する。

(2) 町内公共交通体系の構築

【デマンド交通の運行】

- ・実証運行結果から本デマンド交通について本格運行の実施を検討する。ただし実証運行における以下の課題について改善するものとし、令和5年度、本協議会において改善を図った運行内容について協議検討を行い、再び実証運行を行って（令和5～6年度）地域医療バス程度の輸送人数の見通しが立った段階で本格運行へ移行する。
- ・デマンド交通の本格運行にあたっては、地域内フィーダー系統補助の活用を検討する。

・改善事項

- ▶運行方面の輸送人数の偏りから「3方面」から「2方面」へ改善
- ▶「上り便（自宅⇒連絡施設）」と「下り便（連絡施設）」の間における「市街地内連絡施設間交通（巡回バス）」の検討
- ▶歯科診療所2医院の追加

【市街地内連絡施設間交通の検討】

- ・デマンド交通上下便約3時間の間において、市街地の連絡施設間を移動することができる「市街地内連絡施設間交通」の運行について検討する。
- ・本交通はデマンド交通と合わせ実証運行による検証を行う。
- ・市街地内連絡施設間交通の本格運行にあたっては、地域内フィーダー系統補助の活用を検討する。

【スクールバスの一般混乗】

- ・デマンド交通を補完する交通手段として、停留所及び運行時刻などの利用案内と合わせたスクールバスへの一般混乗を検討・実施します。

【天塩更岸線の見直し】

- ・天塩更岸線については、利用状況や利用者へのヒアリング等によりデマンド交通やスクールバスの一般混乗への統合を検討する。

(3) 公共交通利用活性化策の検討

【運転手の確保】

- ・地域おこし協力隊の取組み等を活用して、バス運転手等を含め地域交通の担い手の確保を図る。
- ・町内の公共交通を担う交通事業者の運転手の募集について、広報誌や町ホームページへの掲載等により、情報発信の支援を行う。

◎天塩町における地域おこし協力隊の募集状況

「移動支援」（地域公共交通機能の創出確保を担う業務）

- ・町内公共交通事業の運転業務支援、交通弱者移動支援、買物・通院支援

★普通免許取1年以上、大型及び二種免許保有者優遇

天塩町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

【自動車運転免許自主返納の促進】: 図11

- ・北海道高齢者運転免許自主返納サポート制度への協賛店を募集する。
- ・天塩町独自の運転免許自主返納特典制度について研究する。
- ・一部の高齢者層について運転を過信する状況を抑制するために、年齢が高いほど死亡交通事故の発生率が高くなる情報等を発信する、高齢者モビリティマネジメントの実施を検討する。

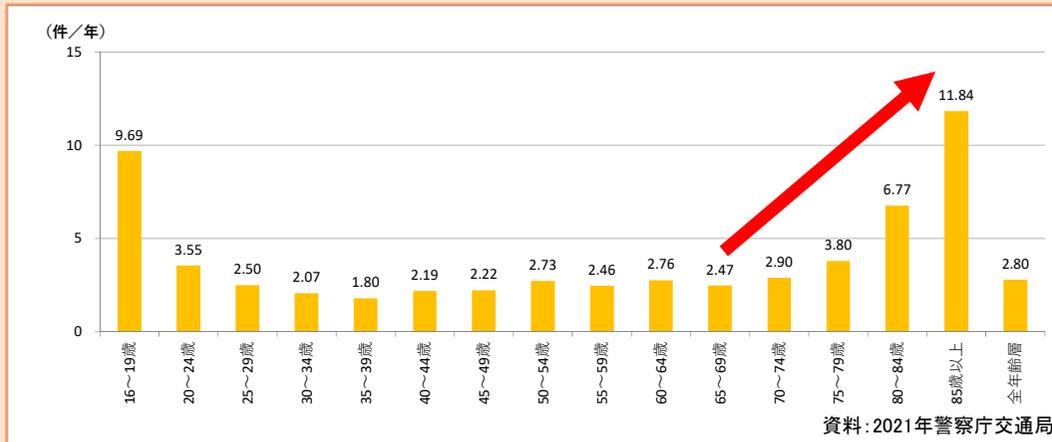


図11 10万人当たり死亡交通事故件数

【新たな予約方法の検討】: 図12

- ・仮にデマンド交通を導入を図る場合、耳が不自由な方、電話でのコミュニケーションがとりづらい方に対応した予約方法について検討する。
- ・耳が不自由な方にはFAX予約、コミュニケーションがとりづらい方には自動音声予約が考えられる。
- ・デマンド交通の導入する時点で、新たな技術等を調査検討する。

サービスイメージ

予約操作の流れを記載します。

1. ダイヤル
2. 自動音声 (こちらは乗合タクシーの予約サービスです。予約を行う場合は[1]を、終了する場合は[0]を押してください。)
3. プッシュ [1]
4. 予約登録
5. 配車

IVR (対話型音声応答) とは、お客様からの着信に対して、システムによる音声案内や、プッシュ (手動) する番号に応じて適切なメニューや内容に振り分けを行う機能です。従来の電話代行サービスとシステムを融合させた、新しい電話窓口のスタイルをご提供いたします。

システムイメージ

IVRサービス
お申込が必要

	主な動作	備考
IVRサービス	電話から入力されたプッシュ番号情報を予約受付サーバーに送信。サーバーからの応答 (テキスト情報) を音声合成。	お申込が必要
予約受付サーバー	IVRサービスから送信されたプッシュ番号情報に応じて返答。予約情報を蓄積・ファイル化	今回、構築
予約管理用PC	予約受付サーバーから予約情報をダウンロードし、配車スケジュールを作成。PC内の予約管理ツール (エクセル) に予約情報を転記。	既存ツール使用

図12 自動音声予約システム

※参考: 導入する場合の初期費用約200万円、維持費用月額3万円

●事業実施の適切性

- ・計画通り事業は実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
- ・今後、地域公共交通計画策定の際は、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。